

露地野菜経営との連携による 飼料生産の取組事例について

取組紹介



千葉県君津農業事務所改良普及
課普及技術員 櫻沢 実奈 氏

【メモ欄】

露地野菜経営との連携による 飼料生産の取組事例について

千葉県君津農業事務所改良普及課

1

君津地域の農業の概要

〈主な作物〉

水稲、いちご、なし、カラー

だいこん、レタス、小糸在来(えだまめ・大豆)



- ・県全体の生産量は**全国第2位**(令和4年)
- ・君津地域では、主に**袖ヶ浦市**で栽培
- ・**秋冬だいこんの指定産地(袖ヶ浦市)**

その他、さやいんげん、キャベツ、トマト、キュウリ、
メロン、ブルーベリーなど



2

君津地域の畜産の概要

〈乳用牛〉

- ・飼養戸数35戸、飼養頭数2,088頭
- ・主な産地は袖ヶ浦市

〈採卵鶏〉

- ・飼養戸数29戸、飼養羽数2,374千羽
- ・主な産地は君津市、袖ヶ浦市
- ・アローカナ(青玉卵)の生産が盛んに行われている。

その他、肉用牛、豚、肉用鶏が飼育されている。

※飼養頭羽数は平成30年度畜産農家実態調査より



袖ヶ浦市内の酪農家における、
露地野菜経営との連携による
飼料生産の取組事例を紹介します！

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組〈事例①〉

〈取組概要〉

飼養頭数：搾乳牛20頭

取組品目：だいこん
飼料用トウモロコシ

取組面積：約8ha

取組開始時期：令和元年頃

取組のきっかけ：取引のあった飼料会社から誘いがあった。

飼料供給先：自農場、他（約1ha分は地域の酪農家に販売）



5

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組〈事例①〉

〈作業スケジュールと作業体系〉

令和6年									令和7年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
播種				収穫							
						播種				収穫	

○畜産農家は飼料作に係る一連の作業（堆肥散布から収穫・調整まで）を実施。

○収穫には汎用型飼料収穫機を使用。（事例②の農家と共同利用）

6

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組〈事例②〉

〈取組概要〉

飼養頭数：搾乳牛40頭
 取組品目：だいこん
 飼料用トウモロコシ
 取組面積：約8ha
 取組開始時期：数十年前(現在の経営者が小学生の頃から)
 取組のきっかけ：親戚同士
 飼料供給先：自農場



7

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組〈事例②〉

〈作業スケジュールと作業体系〉

令和6年									令和7年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
← 播種 →				← 収穫 →							
					← 播種 →				← 収穫 →		

- 畜産農家は飼料作に係る一連の作業(堆肥散布から収穫・調整まで)を実施。
- 収穫には汎用型飼料収穫機を使用。(事例①の農家と共同利用)

8

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組〈事例③〉

〈取組概要〉

飼養頭数：搾乳牛34頭

取組品目：キャベツ
飼料用トウモロコシ

取組面積：約70a

取組開始時期：平成29年頃

取組のきっかけ：親同士の付き合いがあり、露地野菜農家から誘いがあった。

飼料供給先：自農場



9

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組〈事例③〉

〈作業スケジュールと作業体系〉

	令和6年									令和7年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	← 播種 →				← 収穫 →							
						← 播種 →			← 収穫 →			

○畜産農家は飼料作に係る一連の作業(堆肥散布から収穫・調整まで)を実施。

○収穫には細断型ロールベアを使用。

10

露地野菜経営との連携による飼料生産の取組

野菜農家、畜産農家双方にメリットがある！

野菜農家	畜産農家
牛ふん堆肥の施用により、 連作による地力低下を改善できる！	牛ふん堆肥を有効活用できる！
自身が作付けしていない間の雑草対策が不要になる！	
限られた土地面積を有効活用し、作物を生産することができる！	

**一方で、
天候不順や機械の不調等で収穫が遅れた場合、
適期での作付け、収穫ができなくなるリスクがある。**